

明治五年改曆に関する太政官布告

太政官布告

第三百三十七号 十一月九日

今般改曆ノ儀別紙 詔書ノ通被仰出候條此旨相達候事

詔書

朕惟フニ我国通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ躔度(太陽の軌道上の運動のこと)ニ合ス故ニ二三年間必ス閏月ヲ置カサルヲ得ス置閏ノ前後時ニ季候ノ早晚アリ終ニ推歩ノ差ヲ生スルニ至ル殊ニ中下段ニ掲ル所(荒唐無稽な曆註のこと)ノ如キハ率おおよネ妄誕無稽ニ属シ人知ノ開達ヲ妨ルモノ少シトセス蓋シ太陽曆ハ太陽ノ躔度てんに従テ月ヲ立ツ日ノ多少ノ異アリト雖トモ季候早晚ノ変ナク四歳毎ニ一日ノ閏ヲ置キ七千年(約三三三三年)ノ後僅ニ一日ノ差ヲ生スルニ過キス之ヲ太陰曆ニ比スレハ最モ精密ニシテ其便不使モ固リ論ヲ俟タサルナリ依テ自今旧曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ヒ天下永世之ヲ遵行セシメン百官有司其レ斯旨ヲ体セヨ

明治五年壬申十一月九日

- 一 今般太陰曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付来ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候事
- 一 一ヶ年三百六十五日十二ヶ月二分チ四年毎ニ一日ノ閏ヲ置候事

一 時刻ノ儀是迄昼夜長短ニ随ヒ十二時ニ相分チ候処今後改テ時辰儀時刻昼夜平分二十四時ニ定メ子刻ヨリ午刻迄ヲ十二時二分チ午前幾時ト称シ午刻ヨリ子刻迄ヲ十二時二分チ午後幾時ト称候事

一 時鐘ノ儀来ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事あつたむべき

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱来候処以後何時ト可称事しょうすべき

一 諸祭典等旧曆月日ヲ新曆月日ニ相当シ施行可致事いたすべき

太陽曆 一年三百六十五日 閏年三百六十六日四年毎ニ置之

一月	大	三十一日	其一日	即旧曆壬申	十二月	三日
二月	小	二十八日	其一日	同 癸酉	正月	四日
		<small>閏年二十九日</small>				
三月	大	三十一日	其一日	同	二月	三日
四月	小	三十日	其一日	同	三月	五日
五月	大	三十一日	其一日	同	四月	五日
六月	小	三十日	其一日	同	五月	七日
七月	大	三十一日	其一日	同	六月	七日
八月	大	三十一日	其一日	同	閏六月	九日
九月	小	三十日	其一日	同	七月	十日
十月	大	三十一日	其一日	同	八月	十日
十一月	小	三十日	其一日	同	九月	十二日
十二月	大	三十一日	其一日	同	十月	十二日

大小毎年替ルコトナシ

時刻表

午後			午前			
九時	五時	一時	十二時	八時	四時	零時 <small>即午後十二時</small>
戌半刻	申半刻	午半刻	午刻	辰刻	寅刻	子刻
十時	六時	二時		九時	五時	一時
亥刻	酉刻	未刻		辰半刻	寅半刻	子半刻
十一時	七時	三時		十時	六時	二時
亥半刻	酉半刻	未半刻		巳刻	卯刻	丑刻
十二時	八時	四時		十一時	七時	三時
子刻	戌刻	申刻		巳半刻	卯半刻	丑半刻

右之通被^{さだめられ}定候事



第三百五十九号 十月廿三日

今般御改曆ニ付テハ来ル十二月朔日二日ノ両日今十一月廿日廿一日ト被^{さだめられ}定候條此旨相達候事

第三百六十号 十一月廿四日

今般御頒行相成候太陽曆ニ掲載有之候御祝日御祭日等ハ当分御仮定ノ儀ニ付猶追テ月日精細推歩ノ上御確定候條此段為心得相達候事

○

第三百六十一号 十一月廿六日

今般太陽曆御頒行ニ付来明治六年限各地方ニ於テ略曆板刷被差許候條出版(出)販売致度者ハ草稿ヲ以テ其管轄庁へ願出許可ヲ可受事

但略曆ハ御頒行太陽曆ヲ標準ト可致旧曆中歲徳(縁起の善いとさ)金神(縁起の悪)日ノ善悪ヲ始メ中下段中掲載候不稽ノ説等増補致候儀一切不相成候尤世上辨利ノ為シテ時刻表など加へ候儀ハ不苦候事

○

第三百六十二号 十一月廿六日 府県

略曆板刻ノ儀第三百六十一号ノ通来明治六年限被差許候條管下人民へ布告シ出版(出)願出候ハ、地方官ニ於

テ御頒行曆ニ照準検査ノ上不都合これなき無之者ハ出板販売可差さしゆるすべき許事

- 『明治五年太政官布告 三』（国会図書館「近代デジタルライブラリー」所収）。
- 読みやすさのために、旧漢字は新漢字に変更し、適宜振り仮名をつけた。
- 理解を助けるために適宜割注を附した。
- PDF化にはL^AT_EX_{2_ε}でタイプセッティングを行い、dvi₂pdf₂を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。